

第 2 回 千里ニュータウン再生指針意見聴取会議 意見の再生指針への反映

項 目	意見の内容	反映の内容
都市像		
多様な世代が 楽しめるまち	(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルを「多様な世代が<u>変わり</u>、楽しめるまち」に修正 ・文中に「<u>住み、訪れ、交流しながら</u>楽しく暮らせる」を追記
	働く機能の 導入・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・文中に「<u>学ぶ、働く、遊ぶ等の機能も充実</u>」を追記 ・取組方針として、まち全体で「<u>趣味やスキルを磨く教育・創業支援施設など、状況に応じて誘導</u>」を追記。地区センターの活性化に関しては、現行の指針に「働く場などの多様な場を創り出すことが必要」と記載済みだが、近隣センターの活性化においても「<u>働く、学ぶ、交流する、創る、憩う、地域活動を行うなどの多様な機能の導入</u>」することを追記
みどり豊かで 健康に暮らせる まち	(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・千里の自然は人工であり、四季の移り変わりの中で植物や小さな動物などに触れられる程度である。引き続き、公園等で植物等に親しめるよう、適切に公園等の環境を維持していくため、取組方針において「<u>日常のみどり環境について～維持管理を進める</u>」と表現
	農業の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・畑等の居場所づくり等は、公園等でのみどりを楽しむ方法のひとつと捉え、取組方針において「<u>住民等が使える・楽しめる空間</u>」を追記。また居場所づくりとして、住民が公園で集い楽しむための「<u>パークカフェやイベントの実施</u>」を追記
ふれあい支えあ うまち	(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・住民や団体等の多様な主体が関わりあうことによって、“支えあい”だけでなく、個々の自己実現もイメージできるよう、タイトルを「<u>誰もが輝き、支えあうまち</u>」に修正
	人材活用	<ul style="list-style-type: none"> ・文中に「<u>多様な団体や企業等の地域活動</u>」を追記 ・取組方針に「<u>千里ニュータウンやその周辺の医療機関、地域の人材を活かし、まちの保健室や健康・医学に関わる講座の開設など、健康維持の拠点づくり</u>」を追加

項目		意見の内容	反映の内容
持続可能性のあるまち	(全体)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能であることは前提なので、“持続し進化する”という言葉の方がふさわしいのでは 	<ul style="list-style-type: none"> タイトルを「<u>持続発展する、イノベーションのまち</u>」に修正 文中において、まちを持続的に発展させるために「<u>新しい技術や、多様なビジネス、サービス、人材等により、新たな生活文化がうまれるまちをめざす</u>」を追加
北大阪の核となるまち	総論	<ul style="list-style-type: none"> 「グレーター千里」という言葉は、これからの（若い世代の）人々に理解できるか。「北大阪の核」という言葉もあるので、定義をしておくべき 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすさを重視して、「グレーター千里」は使用せず、「<u>北大阪</u>」に統一 文中において、単に「先端技術に触れられる」だけではなく、「<u>新しい技術や価値観、文化等を取り入れ、豊かな暮らしと都市魅力の創造</u>」に変更
		<ul style="list-style-type: none"> 「グレーター千里」とは、周辺との連携の中で出てくるイメージ。初めからあるポテンシャルではない 	
		<ul style="list-style-type: none"> “イノベーション”に対応する部分だと思うが、イメージが伝わりにくい。先導的な要素が住宅地全体に展開して住民を取り込んでいくイメージならばもう少しうまい表現があるのでは 	
あり方			
①土地利用	総論	<ul style="list-style-type: none"> 今まで容積率 100%を目指したまちづくりだったが、これからは容積率 200%のまちづくりを意識せざるを得ないのではないかと。容積率 200%のまちなみは“ごちゃごちゃ”しているように見える一方で様々な機能がある。そのような都市の将来像を描いても良いかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> 文中（多様な都市機能を生み出す複合的土地利用）について、「<u>立地状況に応じて～働く、遊ぶ、憩う、学ぶ等の多様な機能を導入</u>」に修正
	地域団体等の活動拠点	<ul style="list-style-type: none"> NPO などの団体が、地域で活動しやすくするための支援が必要だと思う。シェアオフィスのようなものがあれば活動しやすくなる 	<ul style="list-style-type: none"> 文中（近隣センターの活性化）に、「<u>働く、～地域活動を行うなど、多様な都市機能の充実</u>」を追記 取組方針において、近隣センターで「<u>空き店舗等を有効活用し、地域交流・芸術文化活動の場や在宅ワークの支援拠点など、多様な機能を導入</u>」を追記
②住宅・住宅地	デザイン性の重視	<ul style="list-style-type: none"> “カッコいいまち”とは、先導性とデザイン性の2つ（が兼ね備わっているのでは）。千里は、デザイン性が優れていたはずだが、希薄になっている 	<ul style="list-style-type: none"> 文中（集合住宅の～まちづくりへの貢献）で「みどりの保全、周辺の景観と調和した良好な景観の形成、ゆとりある空間の確保、コミュニティ形成等の視点が重要」は引き続き明記 取組方針として「<u>まちづくりをリードする集合住宅の建替え・改修をめざし、健康増進や環境配慮などの視点を取り入れた「未来社会のモデルとなるような住宅地づくり</u>」を追記

項目		意見の内容	反映の内容
	戸建て住宅地のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 戸建て住宅地では、“環境を守る”という保全型ばかりだが、“再活性化”という視点の方が重要。10年先すらも分からない住宅地もある 戸建て住宅について、採光や通風、プライバシーの確保などの面から考えた基準ルールを示すことができれば、健康につながるのでは 緑もない狭小な戸建て住宅地に建替わっている例もあるので、モデル的な住宅地、戸建て住宅のあり方を示せないか 	<ul style="list-style-type: none"> 取組方針において、引き続き「地区計画や建築協定～等の制度を活用して地域の状況に応じたまちのルールづくりを進める」ことを明記 また、健康増進や環境配慮などの視点を取り入れた「<u>未来社会のモデルとなるような住宅地づくり</u>」を追記
	新たな住民等の呼び込み	<ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンへ新たに人を呼び込むという考え方があまりないように思う。いろいろな人が住めるというイメージが未来型（のまち）としてあればよいのでは 	<ul style="list-style-type: none"> 文中（多様な暮らしを実現する住宅の供給～）で、「<u>地域コミュニティやまちの魅力づくりの担い手等となるような若年世帯等の居住を積極的に誘導</u>」に修正
④安心・安全なまち	健康・医療の充実の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 「健康」「医療」は具体的に何か記述すべきではないか 先端医療と地域医療は、セットでなければ成立しないらしい。健都と千里はつながっていると捉えて扱げられないか 	<ul style="list-style-type: none"> 文中に「<u>総合病院や周辺の先進的な研究機関・地域人材等と連携し、健康増進の取組み</u>」「<u>生きがいを持っていきいきと暮らすことができるよう、居場所があり、多様な活動等に取り組める環境づくり</u>」を追記 取組方針において、「<u>ウェアラブルデバイスなど、ICTを活用し住民の健康をサポートする仕組みづくり</u>」「<u>健康増進の拠点づくり</u>」を追記
⑤子育て・高齢者にやさしいまち	(全体)	<ul style="list-style-type: none"> 障害者や外国人は入らないのか。“人にやさしい”という表現の方がよいのでは 	<ul style="list-style-type: none"> タイトルを「<u>誰もが暮らしやすいまちのあり方</u>」に修正 文中に「<u>障がい者、外国人等</u>」を追記
⑥文化と交流	(全体)	<ul style="list-style-type: none"> “国際交流”ではなく、“多文化共生”という視点を入れるべきでは。外国人市民との関わりに関する記述も必要 	<ul style="list-style-type: none"> 文中の「国際交流」を「多文化共生」に修正 取組方針においても、引き続き「～学生・留学生～等～交流機会や活動拠点等の充実」を明記
		<ul style="list-style-type: none"> インバウンドの高まりに関係なく「多文化共生」という観点は重要。今後も続くか分からない「インバウンド」現象を新再生指針の中に入れるのはどうなのか 	<ul style="list-style-type: none"> 「インバウンドの高まりに対し、…」の文章は削除

項目		意見の内容	反映の内容
	歴史に関する資料等の保存	<ul style="list-style-type: none"> 千里ニュータウンの過去の資料が散逸しかけているように思う。個人所有の資料をしっかりと管理できる場所・体制があればよい 資料はオープンデータ化してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 文中のまちの資源（生活文化やまちの歴史等）の発掘だけでなく、「蓄積」も追記 取組方針において、「生活文化や歴史などの情報の発信拠点としての充実」、「広く情報発信していくため、SNS等のインターネットを活用した仕組みについて検討」を追記
⑦再生の推進体制	地域マネジメント組織の設立	<ul style="list-style-type: none"> 地元住民の意見やアイデアを聞くプロセスが必要では 「再生のプロセスのマネジメント」も重要ではないか。近隣センターなど、新たなフェーズに入っていくプロセスにおいて、住民参加型で入れるマネジメントが重要ではないか 地域で地域のことを調整する体制を早急につくる必要がある。地域マネジメントは組織が設立されればよくなるので、具体化できるようにしてほしい これまでの10年間で民間分譲マンションの戸数が約3倍に増え、住宅全体のバランスが崩れてきたが、このままの方向で進めてよいのか。今後、分譲マンションの管理をどうするか、建替え時には調整がしづらくなる（ことを考えるべきでは） 	<ul style="list-style-type: none"> 文中に「まちづくりの課題やテーマに応じた、住民・事業者・行政・専門家等、必要な関係者が柔軟に検討・議論できる新たな体制づくり」「地区センター等でのエリアマネジメントに取組むことが重要」を追記 取組方針において、「ニュータウン全体の共通課題の解決に向けて、行政、事業者、住民、専門家等による体制づくりを検討」「地区センターなどの活性化において、～関係者によるエリアマネジメントの体制づくりや運営等を支援」を追記 取組方針において、「既存の民間集合住宅においては、適切な管理に向けた管理組合への支援等」を追記